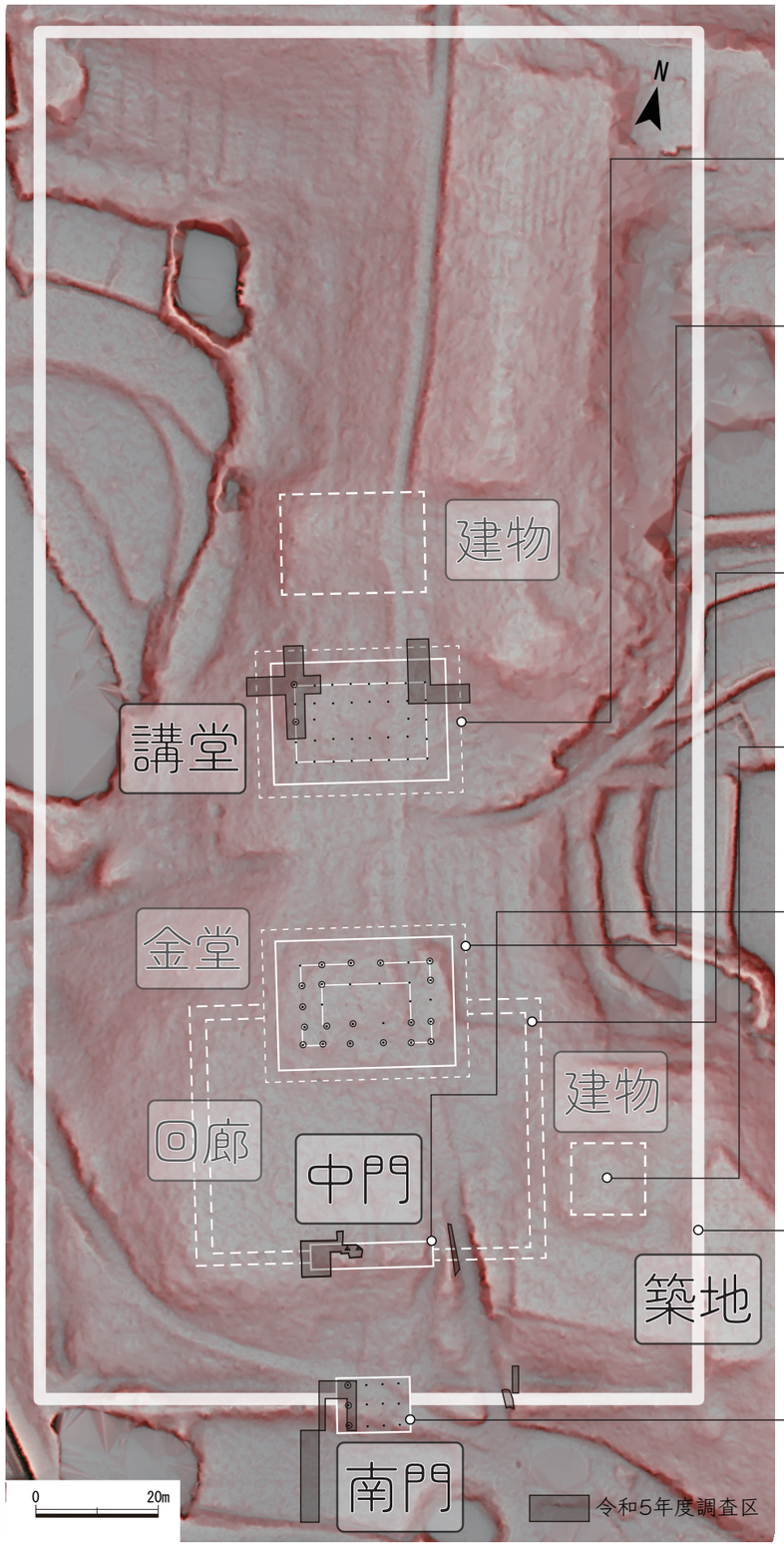
史跡備中国分尼寺の伽藍配置図

※伽藍：寺院の建物の総称。



備中国分尼寺跡の伽藍配置（S＝1/1,000）

講堂【瓦葺礎石建物】

お経について教え、学ぶための建物

建物周囲に多量の瓦が出土
２個の礎石が残存する

金堂【瓦葺礎石建物】 p1 参照

仏像をまつる寺院の中心となる建物

＜建物の推定規模＞５間 ×４間
19 個の礎石が残存する

回廊

重要な建物をつなぐ廊下

建物

詳細は不明、今後の調査成果に期待！

中門【瓦葺掘立柱建物】 p3 参照

回廊内へ出入りするための門

＜基壇＋土塁の推定規模＞
南北４ｍ × 東西 20m
＜門の推定規模＞
３間 ×１間

築地 p2 参照

寺院の周りを囲むための塀

塀の根元の幅 1.6 ｍ

南門【瓦葺礎石建物】 p2 参照

寺院へ出入りするための門

＜基壇の推定規模＞
南北９ｍ × 東西 12m
＜門の推定規模＞
３間 ×２間

※この資料は調査中の情報であり、最終的な結果ではありませんので、引用・転載はご遠慮願います。

令和６年１月２７日
現地説明会資料

史跡 備中国分尼寺跡

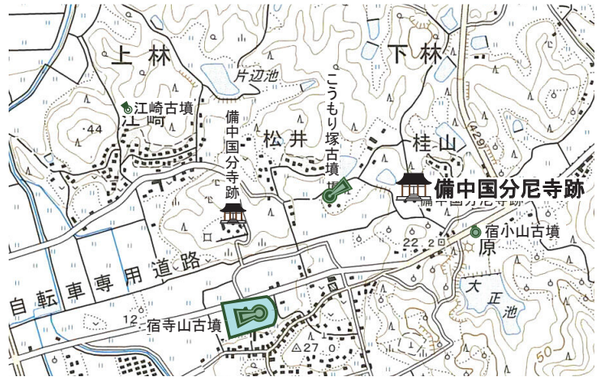
場所：総社市上林ほか
主催：岡山県古代吉備文化財センター

岡山県古代吉備文化財センターでは、「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業に伴い、令和５年１０月から史跡備中国分尼寺跡の発掘調査を実施しています。

備中国分尼寺跡の金堂跡と礎石

史跡備中国分尼寺跡は天平 13（741）年に聖武天皇の命によって諸国に建てられた国分尼寺のひとつです。各国の国分尼寺跡では場所が確定しないものも多い中、備中国分尼寺跡は金堂の礎石や寺域を囲む築地が良好な状態で残されており、その重要性から大正 11（1922）年に国の史跡に指定されました。この史跡備中国分尼寺跡は昭和 46（1971）年度に岡山県教育委員会が発掘調査を行っていますが、南門の南側に推定される古代山陽道を対象とした調査でしたので、建物などの正確な配置や規模、構造に関する情報はなく、その内容はベールに包まれたままでした。国史跡に指定されてから 101 年、ついに始まった今回の調査は初の本格的な寺域内の調査となります。このたびの調査では南門、中門、講堂の建物規模や構造の一端が明らかとなりました。備中国分尼寺跡は、調査事例の少ない国分尼寺跡において、新たな知見を示す重要な事例となります。

昭和 46 年度の調査風景（東から）



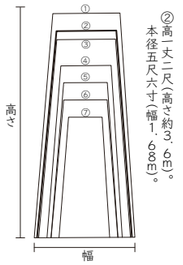
調査地位置図（1/20,000）

南門（なんもん）

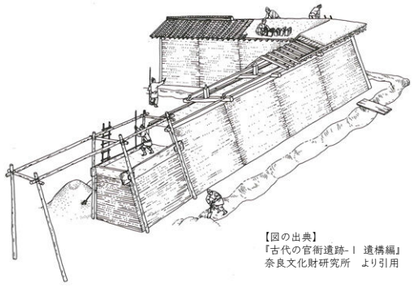
寺院へ出入りするための門

＜基壇の推定規模＞南北９ｍ × 東西 12ｍ
＜門の推定規模＞３間 ×２間

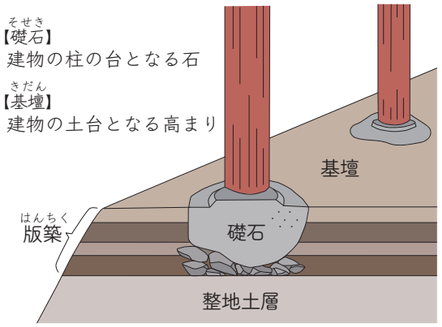
築地（ついじ）（西から）



『延喜式（えんぎしき）』築地規模規定

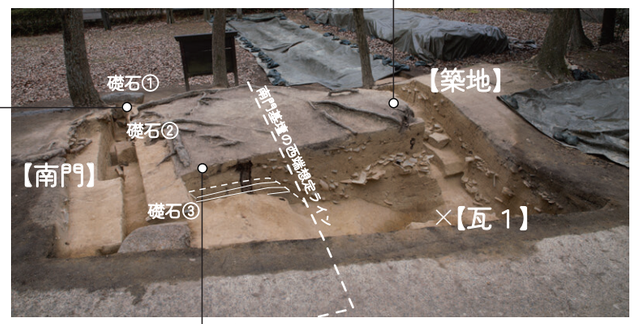


築地の構築工法

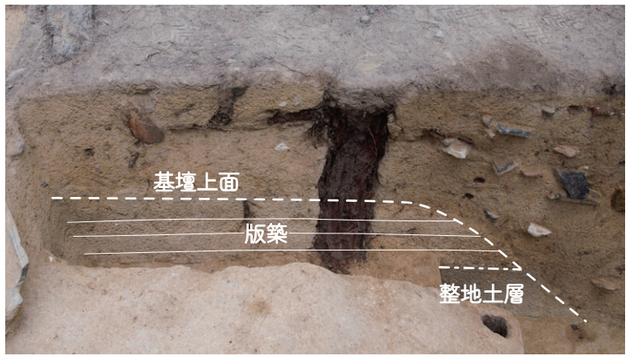


基壇（きだん）・礎石（そせき）模式図

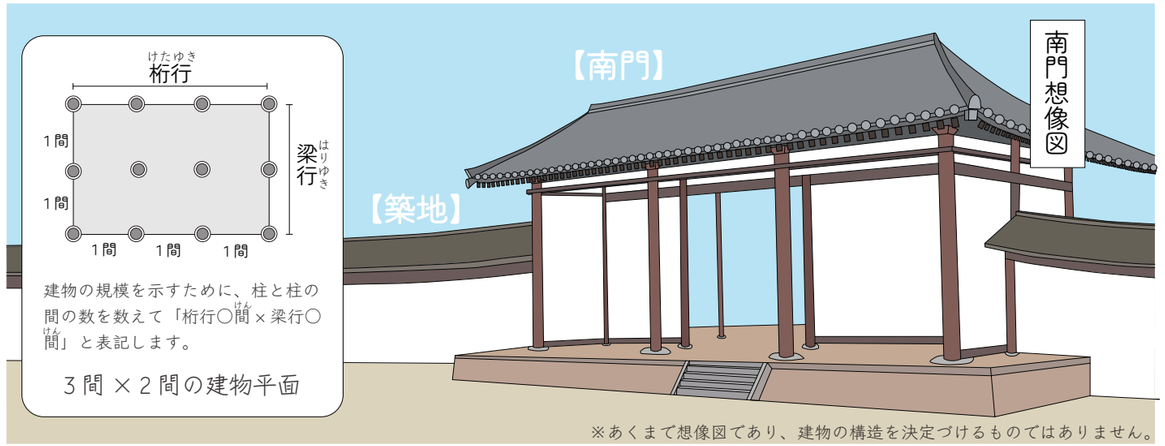
礎石（そせき）②（東から）



南門調査区（北から）



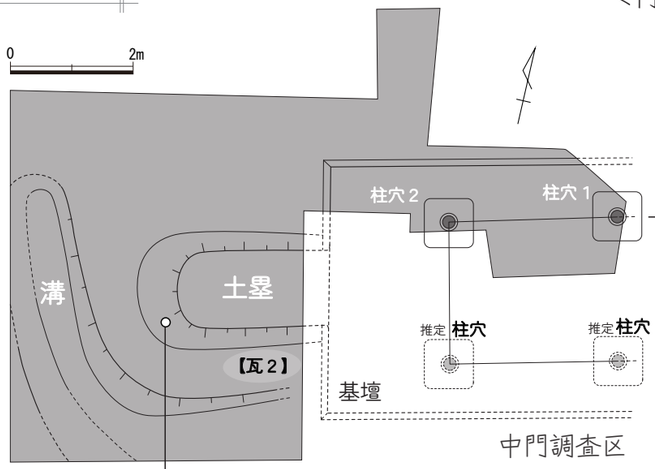
基壇（きだん）（北から）



中門（ちゅうもん）

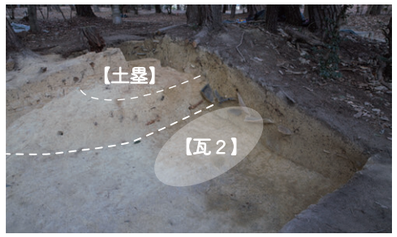
回廊（かいろう）内へ出入りする門

＜基壇＋土塁の推定規模＞南北４ｍ × 東西 20ｍ
＜門の推定規模＞３間 ×１間



中門調査区

土塁（どるい）（西から）



土塁（どるい）（南から）

柱穴（はしらあな）１（西から）

柱穴（はしらあな）２（北から）

出土遺物

令和５年度調査の主な瓦の出土状況

【瓦１】 南門出土瓦（左：軒平（のきひら）瓦、 右：軒丸（のきまる）瓦）

【瓦２】 中門瓦溜（かわらだ）まり

YouTube『復元！古代瓦』

復元した古代瓦（1/2 スケール）

⓪土をこねる ①粘土を切る
②たたきしめる ③形を整える

ここから動画をチェック！！